

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：関東地方整備局都市整備課
担当課長名：東 智 徳

事業名 やちまたごうとせん 八街神門線	事業区分 街 路	事業主体 千葉県
起終点 自：千葉県八街市大木字吉山 至：千葉県八街市八街字西光明坊	延長 1.5 km	
事業概要 八街神門線は、千葉八街横芝線及び成東酒々井線のバイパスの一部を構成し、JR総武本線との立体交差を含む延長1.5 kmの4車線道路である。		
H6年度事業化	S49年度都市計画決定 (H10年度変更)	H7年度用地着手
全体事業費 約64億円 事業進捗率 67% 供用済延長 0.0 km		
計画交通量 11,700台/日		
費用便益分析結果 B/C (事業全体) 2.7	総費用 (事業全体) 65億円 (事業費: 64億円 維持管理費: 1.2億円)	総便益 (事業全体) 175億円 (走行時間短縮便益: 169億円 走行費用減少便益: 1.7億円 交通事故減少便益: 4.8億円)
		基準年 平成15年
事業の効果等 ・都市の再生（DID区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する） ・国土・地域のネットワーク構築（現道等における交通不能区間を解消する） ・個性ある地域の形成（鉄道により一体発展が阻害されている地区を解消する）		
関係する地方公共団体等の意見 八街神門線は、八街駅周辺の駅利用交通と通過交通の分離による交通混雑の解消と歩行者の安全確保が期待されており、地元市から早期整備の要望を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 国道409号沿線に商業施設の立地が促進され、駅周辺の交通混雑は、ますます深刻化している。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地買収率は約90%に達しており、買収済み区間については一部工事着手を行なっている。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 地価下落による過年度買収単価との乖離による用地交渉の難航により事業が長期化したが、買収済み箇所から随時工事を行い、早期の供用を目指している。		
施設の構造や工法の変更等		
対応方針 事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。